
逃走中 Mix M@ster! ~グレイト・エスケーパー計画を阻止せよ! ~

午後零P

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

逃走中 Mix Master! ～グレイト・エスケーパー計画を阻止せよ！～

【Nコード】

N5037W

【作者名】

午後零P

【あらすじ】

歴代の逃走成功者達のクローンを使って実行される謎の『グレイト・エスケーパー計画』。
それを企てる者と、それを阻止するために立ち上がった逃走中の開発者・月村サトシと二人の助手の戦いに逃走者達が巻き込まれる。
果たして、ハンターから120分間を逃げ切り、高額賞金を手にする者は現れるのか!?

プロローグ（前書き）

どうも、午後零Pことイブニングゼロです。
私の逃走中第三弾をお届けします。
少しでも楽しんで頂けたら幸いです。

プロローグ

ここは大海原の真ん中。

その上を進む船の上に、その人影はあった。

海をバツクに赤とピンクの衣装で歌い踊る二人の少女。

その歌が終わってすぐに拍手があがった。

春香

「みんな、ありがとう！」

まどか

「大好きです！」

その二人、天海春香と鹿目まどかは目の前に並ぶ仲間達に笑顔を見せた。

律子

「才能あるわね、あの子」

千早

「ええ」

雪歩

「わあ……………」

愛

「最高でしたよ〜！（超大声）」

絵理

「ひゅっ!？」

涼

「耳が……………」

冬馬

「絶対黒井のおっさんに狙われるな、こりゃ」

ほむら

「まどか……………綺麗……………」

マミ

「いい歌だったわ……………」

さやか

「ですね〜」

杏子

「ホントいい歌だ……………ボリボリ（クッキーを食べる）」

最後の最後に魔法少女となったまどかの願いによって『ワルプルギスの夜』が倒され、新たな理ことわりが生まれた世界。

本来の歴史では世界を構成する概念そのものとなって消滅する筈だったまどかはこの時間軸では魔法少女として健在である。

だが、最も本来の歴史からかけ離れているのは……………

？

「最高だったよ！」

まどか

「うん！ありがとう、『キユウベえ』！」

ほむら

「アイドルというものを理解できるとは、本当に人間臭くなったわね……………」

キユウベえ？

「ボクは本当の事を言っているだけだよ？」

まどかの願いのせいか、少女達の物語の黒幕であった『インキュベーター』・通称キュウベえが人間の少年のような姿になっている事である。

今の彼？は姿だけでなく心まで人間っぽくなり、かつての面影はインキュベーターの姿の耳？のようなツインテールしかない。
因みに、今は『鹿目九兵衛』という名前で鹿目家の養子という事になっている。

杏子

「同人誌か〜い！」

マミ

(しかし、これが本当にキュウベえなのね……………)

ほむら

(いくら人間として生活するためだからってこの当て字はちょっと……………)

本作では便箋上、表記は『キュウベえ』とする。

その時、春香ともまどかとも関係のない一人の人物が興奮しながら二人に近づく。

？

「ムツハー！いい歌じゃないのー！」

？

「おいおい……少しは落ち着いたらどうなんだ」

知る人ぞ知るSOS団の団長・涼宮ハルヒだ。

突っ込みを入れたのは彼女にいつも振り回される男・通称キョン。

ハルヒ

「そこらへんの安っぽいアイドルよりずっといい良かった！マジよ！あ、まどかちゃんだったけ？いっそのことアンタも765プロに入っちゃいなさい！売れるわよきつと！」

まどか

「ええ~~~~~!!？」

ほむら

「な……まどかがアイドルに!？」

さやか

「おお~！」

まどか

「え、ちょー!？ほむらちゃんにさやかちゃんまで!？」

///

「鹿目さんの歌、もっと聞きたいわ」

杏子

「サインもらいに行ってやるし、ライブも欠かさず行くからな〜！」

キユウベえ

「ボクと契約してアイドルになろうよ！」

まどか

「ちょ、ちょっと待って〜！（逃走）」

律子

「あら、どこへ行くのかしら？765プロはいつでもあなたを待っているわよ〜！」

キヨン

「やれやれ」

逃走するまどかは三人の人物の横を通り過ぎる。

？

「今のは……」

？

「お、噂をすれば。彼女が鹿目まどかですね……」

？

「……………」

SOS団メンバーにして未来人の朝比奈みくる、超能力者の古泉一樹、キュウベえとは別の地球外生命体(?)の長門有希だ。魔法少女やインキュベーター、まどかによる世界改変を認識しており、その話をしていたらしい。

この三人が認識しているものはもう一つあった。

古泉

「あの人も地球に起きた異変に気づいていたようですが、彼女達が駆け付けたのは鹿目まどかによって全てが終わった後でしたね」

それは次元世界の平和を守る『時空管理局』の存在。

古泉の視線の先に居る七人もそのメンバーである。

なのは

「後で春香ちゃんのサインもらいに行こうかな」

エリオ

「あ、僕も……………」

はやて

「それにしても、船旅ってええなあ……………」

キヤロ

「そつですね〜」

フエイト

「あ、スバルが戻ってきたみたい」

ティアナ

「もう歌は終わっちゃったわよ」

スバル

「ええ〜！？せっかくみんなでアイス食べながら見ようと思ったのに〜！」

『ジエイル・スカリエツティ事件』を解決した『機動六課』のメンバー達もこの船旅を楽しんでいた。

しかし、この26人には別の目的があった。

春香

「いよいよだ……………」

ハルヒ

「やるからには当然逃げ切るわよ〜！」

まどか

(き、緊張するっ…………)

なのは

「久しぶりの休みだし、思い切り楽しまないと！」

船はもうすぐ港へ到着しようとしている。

先を見据える26人の手には『逃走中』の招待状が握られていた。

一方、ここは今回の舞台となる場所。

逃走中の開発者・月村サトシとその助手である千早と雪歩のクローン・フェニスとアイリスはその場所にある建物を見ている。

アイリス

「ここで私達と同じ、歴代の逃走成功者達のクローンが作られている……」

フェニス

「本当にやるんですか？」

月村

「ああ。ここがゲームの舞台になればあちらも迂闊に手出しはでき

ない筈だ。何かが起きる前にこの地下にあるクローン製造工場を制圧する」

そして月村は手に持つ端末を操作する。

月村

「さあ、ゲームをしよう」

プロローグ（後書き）

次回は逃走者紹介です。

逃走者紹介（前書き）

今回の逃走者達です。

逃走者紹介

『THE IDOLM@STER』からの参加者

いわずとしたアイドルプロデューサーゲームからの参戦。

今回は前回・前々回の逃走成功者を含めた8人が賞金のために逃げ回る！

天海春香

〔Haruka Amami〕

前回は感想を頂いたD・JUNさんいわく『マヌケな確保』だった。行動的であるが、たまに転んだりするのが玉にキズ。

如月千早

〔Chihaya Kisaragi〕

前回は後半戦にて、裏切り者の通報によって確保。

見た目や静かな印象の裏には、逃走成功という今回の目標への強い意思がある。

萩原雪歩

〔Yukihiko Hagiiwara〕

前回はミッション失敗により10体のハンターに追われて捕まり、

敗者復活後に裏切り者の通報で確保。
最近ハンターに対する耐性がつき始めている。

秋月律子

＼Rituko Akizuki＼

前回の裏切り者。

通報によって賞金ボーナスを100万円にまで釣り上げるも、あえなく撃沈。

その戦略性はテレンス・リーにも引けをとらない。

日高愛

＼Ai Hidaka＼

前回は裏切り者の通報で確保 復活 残り1分で無念の確保。
とにかくハンター以上に神出鬼没で、行動力は26人の中でナンバーワン。

水谷絵理

＼Eri Mizutani＼

前回は裏切り者の通報で確保。

最近はある程度自分から動くようになってきている。

一部のまどマギファンから『ハコの魔女』の元ネタといわれている。

秋月涼

↳ Ryo Akizuki

前回の逃走成功者。
運動能力や運があるわけではないが、そこは根性でカバーする。

天ヶ瀬冬馬

↳ Touma Amagase

今回は通報の巻き添えで確保され、復活後は終盤で確保。
ミッションは全て参加する意欲があり、足の速さはそこそこ。

↳ 『魔法少女まどか マギカ』からの参加者

最近魔法少女人気を『リリカルなのは』シリーズから奪いつつある作品から6人が参戦。
オリジナル設定として、プロローグの通りまどか含む魔法少女5人が健在&QBがほぼ人間化している。
また、キャラ崩壊が最も激しいと思われる。

鹿目まどか

↳ Madoka Kaname

原作では世界を包む概念そのものとなって消滅するというあまりにもぶっ飛んだ最期を遂げているが、本作では世界改変後も健在。
足は普通だが行動力があり、積極的に動き回る。

暁美ほむら

↳ Homura Akemi

まどかを救うために何度も時間を遡ってきた、裏の主人公といえる存在。

基本的に行動的でない逃走者とは距離を置く。

巴マミ

↳ Mami Tomoe

『ティロ・フィナーレ』と『マミる』でお馴染みの人。

歴戦の魔女少女としての経験故に身体能力も判断力も高めだが、やっぱりハンターは怖い。

美樹さやか

↳ Sayaka Miki

原作では魔女化したり改変後の世界でも結局消滅したりと、不憫な子。

まどか勢で最も足が速い。

佐倉杏子

↳ Kyoko Sakura

「独りぼっちは、寂しいもんな」の人。

食べ物を買ったために貪欲かつ確実に賞金を狙う。

キュウベえ

〜 Kyubey

原作ではマスコットのふりをした全ての元凶だが、本作では前述の通り身も心も人間そのもの。

インキュベーター時代の食えない所も健在で、基本的にマイペース。

〜 『涼宮ハルヒの憂鬱』からの参加者

根強い人気を誇る日常or非日常系ライトノベル作品からSOS団の5人が参戦。
果たして、どんな逃走劇を見せてくれるのか。

涼宮ハルヒ

〜 Haruhi Suzumiya

SOS団の団長にして作品のヒロイン。

実は本人も知らないといんでもない秘密が……

最近はやや抑えめだが傍若無人で唯我独尊、それでいて身体能力も非常に高い。

キョン

〜 Kyon

主人公でツツコミ担当。
SOS団を含めた癡者揃いの逃走者の中では足も戦略性も運もいたって普通。

朝比奈みくる

＼ Mikuru Asahina 〵

ハルヒの観察にやってきた未来人だが、詳しい事は禁則事項。
初期の雪歩以上にハンターにビビりまくり。

古泉一樹

＼ Ituki Koizumi 〵

ハルヒの観察に来た超能力者の組織の一員。
素の足の速さはそこそこでミッションへの参加意欲もある。

長門有希

＼ Yuki Nagato 〵

みくるや古泉と同じくハルヒの観察にやってきた、キュウベえとは全く別物の地球外生命体。正式名称は長いので省略。
ゲームに参加するにあたり、身体能力を普通の人間の女子高生レベルに調整しているらしい。

＼ 『魔法少女リリカルなのはStrikers』からの参加者〵

作者の長編二次創作作品の原作から隊長トリオとフォワード陣の計7人が参戦。

一癖も二癖もある注目の逃走者達だ。

なお、まどか勢となのは勢は変身なしでの参加となる。

高町なのは

＼Nanoha Takamathい

ご存知我等がエース・オブ・エース。

ミッションに対しては積極的だが、幼少時に運動が苦手だった事が祟って変身なしでの身体能力はそんなに高くない。

フェイト・T・ハラウオン

＼Fate T. Harlaownい

なのはと同等の実力を持つ魔導師。素の状態での身体能力はなのはより上で、ミッションにも積極的に挑む。

八神はやて

＼Hayate Yagamiい

最強ともいえる力を持つ最後の夜天の主。

なのは同様、行動力はあるが足はあまり速くない。

スバル・ナカジマ

↳ Subaru Nakajima

機動六課のムードメーカー的存在。

負けん気が強く、危険を省みずに行動することもしばしば。

中の人繋がりか、ほむらとは何かと息が合う。

ティアナ・ランスター

↳ Teana Lanster

フォワード陣のまとめ役っぽい立ち位置。

足が速く洞察力もあるが、警戒心が強いために動き回るのは苦手。

エリオ・モンディアル

↳ Erio Mondial

紅き幼き槍使い。

今回の逃走者は自分を含めて男が6人しかいないために気合は十分。それに恥じない行動力を持つ。

キャロル・ルシエ

↳ Carolu Lushie

最年少の飛竜使い。

フルバック担当のため足には期待できないが、行動力はそれなりにある。

以上、
26名

逃走者紹介（後書き）

次回はいよいよゲームスタートになります。

ゲームスタート！（前書き）

いよいよ今回からゲームスタートです。

全く関係ありませんが、876組と木星が正式にアニマスに登場しました。

でも涼は女装のまま………

ゲームスタート！

月村が持つ端末にある小さな画面。

逃走者達が港から今回の逃走エリアに到着するのが映し出されたのを確認すると、月村は何かの操作をする。

すると、エリア内のどこかにハンターが入った四つのボックスが転送された。

そしてゲーム開始前、安全のためのヘッドギア・肘あて・膝あてとゲームタイマーを装着し、エリアに散らばる26人の逃走者達。

今回はオープニングゲームを行わず、逃走者達がエリア内に散らばった状態で始まる。

ティアナ

「隠れるとしたらここがいいかな……………」?

古泉

「ハンターはどこから来るのでしょうね……………」

涼

「目指すは二連覇だ!」

マミ

「始まる前からもう何もかもが怖い……………」

果たして、逃げ切る者は現れるのか!?

10

9

3

4

5

6

7

8

「ふう〜、始まったわ〜！」

さやか

「いっ、これからどうしよう……………」

愛

「どこからでも来〜い！」

フェイト

「みんな、大丈夫かな……………」

26人の逃走者を追うハンターは、4体。

彼等は驚異的な瞬発力と持久力を持ち、視界に入った逃走者を見失うまで追い続ける。

逃げ切るのは容易ではない。

また、逃げる逃走者達の行動も三者三様。

律子

「こっちにハンターは……………居ないようね」

エリアの地理を把握すべく、動き回る者。

エリオ

「いざって時に逃げ道が分からないと辛いな……………」

逃走の戦略を立てる者。

杏子

「やっぱり確実にお金をゲットするには引き際を見極めないとな」

ゲーム中常に加え続ける賞金に心躍る者。

エリア内は一分と経たずして、恐怖と欲望に支配された。

従業員

「どろどろ〜」

みくる

「あ、ありがとじいちゃんですぅ……………」

従業員の女性から飲み物をもらっみくる。

今回のエリアはたくさんの客で賑わつとある施設なのである。

みくる

「テレビで見るよりずっと恐いですう〜……………」

いきなりビビりまくる女。

一方、この近くでは……………」

ほむら

「ハンターは視界に入った逃走者だけを追つのよね。いくら足が速
かろうと、見つからなければどうとという事はないわ」

まずは冷静に辺りを見回すほむら。

しかし、その後方にハンター……………」

ほむら

「人混みの中でいきなり会うような事があればまず助からないわね
……………」

ハンター

「！」

見つかった……………

ほむら

「え？あれってハンター！？」

ほむらもハンターに気づき、人混みの隙間から逃げていく。

彼女が逃げた先には……………

みくる

「ふえ！？」

ハンターに追われるほむらを見つけたみくるは一目散に逃げ始める。

しかし……………

みくる

「いやっ！待ってっ！」

そのままほむらがみくるを追い抜いた。

ハンター

「LOCK ON MIKURU」

慌ててスピードを上げるも、ほむらに追い抜かれた時にはもつすでにハンターとの距離は6メートルにまで縮まっていた。

みくる

「いっやっ!」

ポンッ

「朝比奈みくる 確保 残り25人」

残り時間 118:41

賞金 ¥23700

みくる

「ふええ〜……………恐かったよお〜……………キョ〜ンく〜ん……………」

ほむら

「危ない危ない。確実に捕まるかと思つたわ。今みたいな状況じゃ他の逃走者を盾にしないと逃げられないわね……………」

ピリッピリッ

キヨン

「確保情報か！」

確保情報は支給された携帯電話を通じて全ての逃走者に伝えられる。

冬馬

「『ショッピングエリア中心部にて』……………」

はやて

「みくるちゃん捕まってもうた……………」

キユウベえ

「『朝比奈みくる確保、残り25人』……………」

ハンターから逃げた時間に応じて、賞金を獲得できる。それが、

R u n F o r

M o n e y

逃 走 中

逃走劇の舞台は、『トワイライト・ガーデン』。

豊かな自然に包まれた巨大庭園が特長の日本有数の観光スポットで

ある。

前述の巨大庭園、お祭りの出店のようなショッピングエリア、観光客の車や従業員のトレーラーが並ぶ駐車場エリア、エリア北西を占める宮殿のような美術館で構成され、広さは東京ドーム約2・5個分に相当する。

下の図が逃走エリアの簡易地図である。

*

*

：牢獄 ：出店
：噴水 *：自首用電話

この地図の のエリアが巨大庭園のあるガーデンエリア。
のエリアがお土産屋などが立ち並ぶショッピングエリア。
が牢獄が設置された駐車場エリア。

そしてガーデンエリア西部の　　が連なっているのが美術館である。

25人の逃走者は、このエリア内を120分間逃げ回る。

冬馬

「やっぱりこの金が増えるドキドキがたまんねーぜ」

絵理

「もう2万円……………越えてる？」

賞金は1秒300円ずつ上昇。見事120分間を逃げ切れば、最高賞金216万円を獲得できる！

杏子

「うふふふ……………待ってるからな〜電話ちゃん」

このゲームは自首、つまり途中でゲームから降りる事もできる。

エリア内の二カ所に設置された自首用電話で申告すれば、その時点での賞金を獲得し、ゲームからリタイアとなる。

但し、エリア内には4体のハンター。捕まれば即失格、賞金は0！

アイドル達だけでなく、新たな参加者をも恐怖と欲望の渦へと誘う
一獲千金のゲームは、まだ始まったばかり。

果たして、ハンターの追跡から120分間逃げ切り、高額賞金を手にする者は現れるのか！？

ゲームスタート！（後書き）

今回は携帯で使える記号を組み合わせて簡単な逃走エリアの地図を作ってみました。

果たして、パソコンでちゃんと表示されるのか………

それぞれの行動（前書き）

みくるの確保から始まった逃走劇。
最初のミッションは………これだ！

それぞれの行動

残り時間 117:30

賞金 ￥45000

ここはエリア北西の美術館の内部。
この中も逃走エリアとして進入が可能だ。

まどか

「ハンターってこっちにも入ってくるよねきつと……………」

動き回っているうちに美術館へ入っていたまどか。

その時、まどかの背後から……………

冬馬

「よう、鹿目」

まどか

「わ……………」

冬馬

「ハンターじゃねえよ。俺だって」

いつもの黒い衣装での参加であるため、まどかにハンターと間違えられた冬馬。

冬馬

「ちっ……だから今回は私服で参加しようかと思って思ったんだよな。俺ってグラサンかけたらほぼハンターそのものじゃねーか」

まどか

「に、似てるかも………そういえば冬馬さんは賞金どれくらいまで狙ってますか？」

冬馬

「俺は金も欲しいけどまずは逃げ切る事を考えるぜ」

まどか

「あー、やっぱり………私も逃げ切りを狙ってます！」

冬馬

「そうか。頑張りな」

一方、こちらは博物館の外の茂みの近く。

ティアナ

「いい隠れ場所を見つけた……………」

すぐさま茂みに隠れる、茜色のガンスリンガーガール。

ティアナ

「よし。とりあえず今は隠れて、ミッション始まったら動く。この作戦でいってみようかな？」

このゲームでは珍しい戦略だ……………」

ティアナ

「……………ん？」

遠くにハンターを見つけた。

ハンターはこちらに気づいていないようだ。

そのハンターが向かう先には……………」

マミ

「こっちから来たら……………こっちーで、あっちから来たら……………こっち
！」

ハンターに見つかった時のシミュレーションをしている巴マミ。

その近くに……

マミ

「あら、秋月さん」

律子

「あ、ぎゅもぎゅも」

冬馬と同じく、黒い衣装……というかスーツで参戦の、前回の裏切り者。

マミ

「テレビで見ましたよ、以前の裏切りっぷりは」

律子

「お陰で最近ドラマの犯人役や悪女役のオファーが増えて増えて」

マミ

「ああ、そういえばこの前の2時間ドラマの犯人役してましたね」

律子

「ええ。この前なんて『悪イリツチャンモカワイイデスヨ』っていうファンレター来ちゃったし、もうどうしようかとノノノ」

話のはずむ二人。

その時、ティアナが見たハンターが……

ハンター

「！」

マミ

「できれば無事にフィナーレを迎えたいわ」

律子

「そうですね……ってハンター来た！」

マミ

「んなっ!?!」

気づいた二人に迫るハンターはマミに狙いを定めた。

マミ

「何で?!?!」

ハンター

「LOCK ON MAMII」

黄色の髪を揺らしながら必死に走り続けるマミ。
しかし、少しずつ距離は縮まっていく。

マミ

「いやあああっ！ああっ！」

ポンッ

「巴马ミ 確保 残り24人」

残り時間 115:53

賞金 ¥74100

マミ

「うっ……私とした事が……ちょっと話してただけなのに私だけ一足先にファイナルになっちゃった……」

『お菓子の魔女』の時のような、呆気ない幕切れだ……

さやか

「確保情報………うわ〜！マミさん！」

キャロ

「『ガーデンエリア・博物館付近にて巴マミ確保』………」

律子

「あゝ、また悪女役のオファーが増える………」

その頃、駐車場では………

千早

「やっぱり、何度参加しても恐いわね………」

絵理

「………この待受画面………ちょっと怖い？」

停まっている別々のトラックに隠れる千早と絵理。

千早

「昔、角を曲がろうとした時すぐ目の前にハンター来て捕まったのよね……。曲がり角とかこういう物影も油断できないわ」

前々回は敗者復活の末に逃走成功の千早。

しかし、復活前の確保は軽いトラウマになっているようだ。

その時、1体のハンターがこちらへ歩いて来る。

トラックが影になり、千早もハンターも気づいていない。

絵理

「どっしようかな……動こうかな……ひゅっ!？」

ハンター

「!」

ハンターはトラックを挟んだ向こう側に絵理を見つけ、確保へ向かう。

千早

「今のうちに移動を……」

ハンターに気づかないままトラックから離れようとする千早。

しかし、ハンターが急接近。

そしてハンターが千早が居たトラックの近くを通り過ぎようとした時……………

ハンター

「LOCK ON CHIHA YA」

千早

「!?!」

千早が視界に入ってしまった……………

千早

「きゃあああああ!」

ポンッ

「如月千早 確保 残り23人」

残り時間 115:04

賞金 ¥88800

千早

「何でこんな……曲がり角からいきなり来たり通報されたり……
捕まり方がいつもいつもロクなもんじゃないわ……」

スバル

「なのはさん！」

なのは

「確かに今千早ちゃんの声が！」

千早の甲高い悲鳴はショッピングエリアにも聞こえていた。

ジュジュジュジュ

なのは

「確保情報……………やっぱり捕まっちゃったんだ！」

春香

「あゝ！千早ちゃん捕まっちゃった〜！」

長門

「残りは……………23人」

……………

その頃、直接エリア内に来ている月村達を見下ろすある存在があった。

？

「さて、どう出るか……………」

どこかで見たような顔の存在は眩く。

アイリス

「しかし、あの地下にあるクローンを使って何をするつもりなのでしょうか」

月村

「今までの調べではそこまでは分からなかった。だが、このゲームを潰すと同時にこの過去の時代で何かとんでもない事をしようとしているのは間違いない」

そう言いつつ端末を取り出す。

月村

「地下制圧用ハンターの到着はまだか？」

フェニス

「まだ時間がかかりそうです」

月村

「ならばミッションも兼ねて時間稼ぎをしましょう。さすがにあちらもゲーム中に逃走者に手を出すような事はないだろうから、逃走者を動き回らせていた方が都合がいい」

そう言う月村の端末には、逃走者達の位置を示すGPS地図が表示されていた。

.....

残り時間	1 1 3 : 0 0
賞金	¥ 1 2 6 0 0 0

ジュリッジュリッ

フェイト
「これは.....」

メールだ。

フェイト

「来た！『ミッション1』！」

ハルヒ

「『今回君達が持つゲームタイマーにはゲーム開始からの移動距離を計測する機能が搭載されている』何それ？」

雪歩

「『ゲーム残り100分までに総移動距離が2Kmに達しなければ、その逃走者は』……………」

古泉

「『その逃走者は強制失格となる』……………いきなり厳しいですね」

涼

「『なお、移動距離は博物館内にある電工掲示板で確認する事ができる』……………ちよつとやばいかも……………」

「MISSION 1 強制失格を回避せよ！」

現在、逃走者達の腕に装着されたタイマーによってゲーム開始からの移動距離が計測されている。
ゲーム残り100分までに2Kmの距離を移動しなければ強制失格となる。

総移動距離はその場で確認する事はできないが、エリア北西の博物館内にある電工掲示板に全員のゲーム開始からの移動距離が表示されている。

まどか

「あれじゃないですか？」

冬馬

「おー、全員分見れるのか」

まどか

「しかも捕まった人の名前の横に『確保』って書いてある……………」

愛

「ホントですねー！」

冬馬

「うおっ！いつの間に!？」

愛がまどかと冬馬に合流し、三人は一緒に電工掲示板を見る。

「日高愛 1.4 Km」

「天ヶ瀬冬馬 0.6 Km」

「鹿目まどか 0.9 Km」

冬馬

「結構歩いてんだな二人とも」

残り100分までに移動距離が2Kmに達していなければ、その時点で強制失格。

しかし、距離を稼ごうと動けばハンターに見つかる危険も高まる。

果たして、強制失格になってしまう者は現れるのか!?

残り時間 112:29

賞金 ¥135300

残り23人

それぞれの行動（後書き）

イブニングゼロの逃走中初の強制失格ミッション。
果たして、全員クリアできるか！？

生き残り目指して0・5理(前書き)

なのはAWを執筆していて遅くなりました。
ミッション1です。

生き残り目指して0・5理

今回のゲーム最初のミッションが始まった。

ハンターから逃げつつゲーム残り100分以内に2Kmの距離を移動できなければ強制失格となる。

残り時間 112:00
賞金 ¥144000

前回 開始時 25人
確保 2人

現在の逃走者 残り23人

スタスタスタ……………

みくる

「……………」

杏子

「ほいほい……」

キユウベえ

「えっほ、えっほ」

移動距離を稼ごうと、牢獄の前を行ったり来たりする杏子とキユウベえ。

キユウベえ

「ふい〜……結構疲れるよね〜」

杏子

「ふう……せめてどのぐらい走ったかすぐ分かれればいいんだが、それには美術館行かないとなんだよな」

キユウベえ

「ボク達は今10mぐらいの距離を往復しているから、5往復で100m。つまり……」

杏子

「最低でも100往復しないといけないのか。辛いな……今ハンター来たらやばいぞ」

キユウベえ

「いや、千早を確保したハンターはもう向こう行ったし、そう簡単には……」

マミ

「いいえ、ハンターはどこから来るか分からない。ちょっとでも気づくのが遅いと……マミるわ」

杏子

「ま……マミるー!？」

キュウベえ

「何だいそれは？」

マミ

「わ、私みたいに油断して捕まる事よ／＼」

ハンターは神出鬼没。ほんの一瞬でも気を抜けば、確実にマミる。

ほむら

「あ、あなた達は……」

スバル

「お〜い」

なのはとスバルにほむらが合流。

スバル

「ちゃんと走ってるよね、ほむほむ？」

ほむら

「ほむほむ!？」

なのは

「にははは………スバル、ほむらちゃんと仲良くなりたいてって言うてたから………」

スバル

「あたしと声似てるし」

ほむら

「だからって『ほむほむ』はちょっと………////」

明るい雰囲気の中の三人の近くに、ハンター………

ハンター

「!」

なのは

「来たよ!ハンター!」

スバル

「えー!」

ハンターに見つかり、三人は同じ方向へ走り出す。
そしてなのはとほむらは途中で別の方向へ逃げようとする。

スバル

「ひいひい！」

なのは

「あれ！？ちよつとスバル〜！？」

ハンター

「LOCK ON NANOHA」

一歩遅れたスバルはほむらと同じ方向に逃げていき、なのはは一人ハンターに追われる。

全力全開で走り続けるも、ハンターは瞬く間に追い付いてくる。気づいた時には、確保まであと3メートル。

なのは

「にゃああ〜！」

ポンツ

「高町なのは 確保 残り22人」

残り時間 110:29

賞金 ¥171300

なのは

「ええ〜……………無いよ……………何でスバルあっち行っちゃったの〜……………このゲーム一人じゃすっごい恐いのに〜……………」

不屈のエース・オブ・エース、まさかの早々の撃沈……………

ほむら

「あっちはあっちで捕まったみたいね」

スバル

「あ〜……………絶対後で怒られる……………」

エリオ

「確保情報……………ええ〜!?なのはさーん!？」

絵理

「『残り22人』……………ひっ……………怖い……………」

春香

「うわ〜、目の前で捕まってる……………怖いよ……………」

近くに隠れていたために目の前でなのはの確保を見ていた春香。ハンターがまだ近くをうろつき、思うように動けない……………

ティアナ

「とりあえずここらへん回ってれば……………危なっ!」

美術館の周りを回って距離を稼ごうとするティアナはまたハンターを発見。

ティアナ

「まったく、何でさつきからあたしの近くにハンター来るのよ………
さつきはなのはさん捕まったし、あいつら機動六課に何か恨みでも
あるんかい………」

一方、美術館内では冬馬とまどかが少し前の杏子とキュウベえと同じ
事をしていた。

まどか

「ど、どのぐらい行ったのかな………」

冬馬

「何だ、もうへばったのかよ？」

まどか

「ま、まだ大丈夫です！」

冬馬

「そこなくっちゃな！さて、あとどんぐらいかな、っと………」

電工掲示板を見る。

「天ヶ瀬冬馬 1・6KM」

「日高愛 CLEAR」

「鹿目まどか 1・9KM」

「涼宮ハルヒ CLEAR」

冬馬

「おっし！もうちょい！」

まどか

「愛ちゃんと涼宮さんクリア早い……………」

既に愛とハルヒがミッションをクリアし、冬馬とまどかもクリアまであとわずか。

しかし、ティアナが目撃したハンターが……………

ハンター

「！」

一瞬だけ美術館の中のまどかの姿が目に入り、確保へと向かう。

冬馬

「ハンター来やがった！」

まどか

「今度は本物！？！」

逃げる二人を追いかけようと美術館に入るハンター。

ティアナ

「死ぬかと思った……………」

ハンターがすぐ横ギリギリを通り過ぎたティアナは一度美術館の壁に沿ってその近くを離れる。

一方、ハンターに追われるのは……………

まどか

「いや〜!」

まどかだ……………

ハンターとの距離がそんなに近くない内に、通路の角を曲がって逃げる。

ハンター

「?」

ハンターの視界から外れたようだ。

まどか

「も、もう追いかけてこないよね？」

ハンターはまどかを見失い、引き返す。

その先には……………

冬馬

「鹿目がクリアしたか……………」

ハンターに追いかけてられているうちにまどかの移動距離は2Kmを越え、電工掲示板のまどかの名前の横に『CLEAR』と浮かんでいた。

冬馬

「俺も早いとこクリアしないと……………って嘘だろ!？」

戻ってきたハンターに気づき、あちらに気づかれる前に美術館を出る。

ティアナ

「あ、今ハンター入ってっただけど大丈夫なの？」

冬馬

「多分もうこっち来るから逃げた方がいいぞ」

入口近くへ戻って来ていたティアナは再び離れる。

ハンター

「！」

冬馬

「来たか！」

ハンターは入口を出た所で冬馬を視界に捉え、確保に向かう。

美術館からかなり離れていた冬馬はその先の木々が生い茂る場所へ。

そこには……………

キヨン

「うおっ!?!」

森の中で動き回っていたキヨンだ。

巻き添えを喰らい、冬馬と共にハンターから逃げる。

ハンター
「？」

木々が遮蔽物となり、うまく撒いたようだ。

キヨン

「なぜハンターがこっちに……………」

冬馬

「知らん」

その頃、美術館には別の逃走者が辿り着いていた。

雪歩

「あともうちよつとか……………」

古泉

「僕もですね」

まどか

「私とさやかちゃん、いつの間にかクリアしてる……………」

「萩原雪歩 1・5 KM」

生き残り目指して0・5理（後書き）

まどマギポータブルにQB視点のモードがある事が判明。
もし五人全員生き残ったらどうなるのやら。

強制失格5秒前！？MISSION1終了！（前書き）

一日で書き上げたのですっごくいい適当ですが、ミッション1の続きです。

強制失格5秒前！？MISSION1終了！

残り時間 106:00

賞金 ¥252000

前回 開始時 23人

確保 1人

現在の逃走者 残り22人

さやか

「さすがにやばい……………もう時間ないってこれ……………」

移動距離を稼ごうと積極的に動くさやか。

しかし、既に移動距離は2Kmに達している事をさやかは知らない。

他の逃走者達にもだんだんと焦りが見える。

エリオ

「もうすぐか……………」

長門

「あと5分……………」

ミッション残り時間

5:00

涼

「さすがに序盤で失格はやだよ……………」

杏子

「あとどんぐらいだよ!?!?」

ミッション終了まで5分を切った。

果たして、強制失格を免れる事はできるのか!?!?

スバル

「きつついね〜」

ほむら
「ええ」

この二人もミッションクリアのために動き回る。
足の速いスバルが普通なほむらをアシストするという形をとり、なんとかハンターに気づかれずにいた。

しかし、何事も長くは続かないものである。

ほむら

「いたわ！ハンター！」

スバル

「嘘っ！？また！？」

ハンター

「！」

ガーデンエリアへ向かっていた二人だったが、ハンターに見つかり、駐車場へ引き返す。

みくる

「あ！スバルさんです！」

マミ

「暁美さんも……………追われてる!？」

なのは

「頑張れ〜!」

スバル

「なのはさ〜ん!さっきはごめんなさ〜い!」

捕まった四人の声援を受けつつハンターから逃げる二人。

ハンター

「?」

駐車場のトラックの影を利用し、ハンターの視界から消えた。

ほむら

「あ、危ない……………」

ミッション残り時間

3:00

ミッション終了まであとわずか。

涼

「ぎゃおおおおん！まだ足りてないー！」

キャラ

「うーん……………私もあとちょっとなんだけどな……………」

「秋月涼 1.8 Km」

「キャラ・ル・ルシエ 1.7 Km」

他にも電光掲示板を見るためにフェイト、キヨン、律子が美術館を訪れては外へ戻っていった。

ミッション残り時間

1:00

はやて

「みんな大丈夫かいな……………」

0 : 5 0

キユウベえ

「あとは結果を待つだけか……………」

0 : 4 0

雪歩

「強制失格になったらいくら穴掘っても掘りきれないですう……………」

0 : 3 0

キヨン

「時間だな……………」

5

6

7

8

9

0
:
1
0

「春香さん、大丈夫かな………」
愛

0
:
2
0

ミニミニミニ

賞金 ¥ 360000
残り時間 100:00

1

2

3

4

春香

「『ミッション結果』……………」

まどか

「『現在の逃走者は22人。その内1人が強制失格となった』……………」

長門

「『その逃走者は』……………」

惜しくも全員クリアとならず、1人が強制失格となった。

その逃走者は……………」

ティアナ

「ええ！？あたし強制失格！？……………うわゝ、やっちゃった……………この辺り回ってるだけじゃ足りなかったんだ……………うわゝ悔しい……………」

「ティアナ・ランスタール 強制失格 残り21人」

スバル

「ティアー！？」

律子

「あらら………」

古泉

「全員クリアはなりませんでしたが………」

牢獄DEトーク

マミ

「ティアさん強制失格！」

なのは

「ああ〜……………」

みくる

「ひえ〜……………どんどん減ってるよぉ〜……………」

千早

「いや、今のペースはいつもよりは短いほうだと思っわ」

なのは

「そうかなあ?」

マミ

「それより、如月さん」

千早

「?」

マミ

「あなたの活躍、DVDで見てたわ」

千早

「え?もうDVDが?」

マミ

「ええ。前の遊園地でのあなた、輝いてたわ」

千早

「いや、私は敗者復活からだったから……………」

なのは

「雪歩ちゃんは最初から最後まで逃げ切ったもんね。その次の涼君も」

マミ

「私逃走中大好きで、DVDも全部持つてるの。特典映像の牢獄D Eトークも全部見たわ。案外笑い上戸なのね、あなたって」

千早

「……………//」

牢獄の者達が明るくそんな話をしている間、残る逃走者達はハンターの恐怖に必死に耐えている。

逃げ切る者は現れるのか……………

残り時間 99:13

賞金 ¥374100

残り21人

強制失格5秒前！?} MISSION1終了！（後書き）

今更ですが、人間化した本作のQBの容姿はとある同人誌のような姿です。

その同人誌では女の子なのですが、本作ではそれを男にしたような感じ です。

要は昔の秋月涼のような男に見えない男です。

そしてもうすぐ逃走中があります。

絶対見ましよう！

表と裏で動き出す者達（前書き）

9日の逃走中は見ましたか？

表と裏で動き出す者達

残り時間 98:56

賞金 ¥379200

前回 開始時 22人

強制失格 1人

残りの逃走者 21人

キュウベえ

「それにしても今日は絶好の契約日和だよ。今のボクの姿じゃ誰も相手にしてくれないけど」

ミッションを終えたキュウベえはガーデンエリアを散策していた。

ふと噴水を覗くと、人間の姿をした今の自分の顔が水に映る。

キュウベえ

「……………」

まどか達や過去に出会った少女達をエネルギー採取の道具にした頃を思い出し、虚しくなった。

今度は人間の心と身体を手に入れ、まどか達と暮らしていく中でまどかが笑う顔を思い浮かべ、ちよっと楽しくなった。

そして、もう一度噴水に映る自分を見る。

キュウベえ

「……………人間っていうのも、案外悪くないかな……………おっと、ハンターだ」

そう呟き、遠くに見えるハンターに気づかれる前に近くの看板に隠れる。

しかし、別の方向からもハンター……………

キュウベえ

「また来た……………うまくやり過ぎたいけどな……………」

距離が縮まり、絶体絶命のキュウベえ。

フェイト

「あ！居る……………」

ミッション終了後、ティアナが隠れていた茂みに身を潜めていたフェイトはそのハンターの後ろ姿を見てさらに警戒を強める。その距離はキュウベえより近い。

キャラ

「フェイトさん大丈夫かな……………あんなのに追いかけられたらいくらフェイトさんでも怖いよね……………」

心配になってフェイトに電話をかける。

フェイト

「そのまま……………そのまま向こう行って……………」

プルルルルル

フェイト

「（、、）」

ハンター

「？」

フェイト

「ちよつ、嘘……………嘘でしょ〜!？」

ハンター

「!」

着信音でハンターに気づかれ、逃げ始める。

逃げた先には……………

キャロ

「あれ？フェイトさん近くに……………え!？」

保護者の巻き添えになった……………

キャロ

「来ないで下さい〜!」

フェイト

「そ、そんな事言っただって〜!」

ハンター

「LOCK ON FATE CARO」

必死に走るも、やがてフェイトがキャロを追い抜き、大きく引き離

す。

よって必然的にキャラがハンターの標的となる……

キャラ

「わっっ！やだっっ！」

ポンッ

「キャラ・ル・ルシエ 確保 残り20人」

残り時間 96:49

賞金 ¥417300

キャラ

「はひいっ……もしかしてフェイトさんがハンターに追いかけてこっち来たのって、私が電話かけたせい？」

悪意はないが、運もなかった……

フェイト

「あわわわわわわわ……私キャラになんて事を……。〇〇〇」

キュウベえ

「ここは一旦場所を変えた方がいいかな？」

愛

「『美術館付近にてキャラ・ル・ルシエ確保、残り20人』……」

エリオ

「機動六課がどんどん脱落してるな……僕も気をつけないと」

杏子

「食つかい？」

さやか

「こんな時までおやつ食べてるし……緊張感がないんかい」

ショッピングエリアにて、涼しい顔でう〇い棒をかじる杏子。
もう片方の手には三本が握られており、さやかは一本を受け取って
食べ始める。

さやか

「まさか自首する気はないよね？」

杏子

「さーね。逃げ切るか自首するかちょっと迷ってるんだよな。お金
があればおやついっぱい食えるけど、ハンターに捕まっちゃったら
0円だし……………」

さやか

(絶対自首しそう……………)

杏子

「……………ん？何だ？」

杏子が辺りを見回すと、ある人物達を中心に人だかりができている。

杏子

「あれ！？もしかして……………」

さやか

「竜宮小町だ！」

その中心に居たのは、今回のゲームに不参加の竜宮小町の三人であった。

あずさ

「あら、まどかちゃんのお友達のさやかちゃんに杏子ちゃんじゃないの」

さやか

「え？なんであたし達の事を？」

伊織

「前に見滝原市でのライブがあったでしょ？その時あずさがまたどっかいつちゃってさ」

亜美

「まどつちが見つけてくれたんだよ」

杏子

「ふん……もしかしてここでライブ？」

伊織

「そうそう。ほら」

伊織が指差した先には特設ステージがあった。

伊織

「せっかくの仕事なのに律子は『逃走中に出る』っていつて居ないから私達だけでなんとかやってるって訳。しかもその舞台がここな上にあんた達が参加してるなんて」

あずさ

「さっき絵理ちゃんに聞いたのよ」

律子

「ぶえつくし！」

.....

その頃、月村達は.....

アイリス

「準備完了しました」

月村

「よし、早速次のミッションを始めるとしよう」

フェニス

「それにしても、敵はどこに……」

月村

「もし相手が我々がグレイト・エスケーパー計画を嗅ぎ回っている事に気づいているのならば、必ず何かしらの妨害がある筈だ。最初のミッションで時間稼ぎができていれば尚更だ」

フェニス

「もしそうなら？」

月村

「外部からの不正アクセスによる妨害なら、その経路を辿って発信元を特定できるだろう」

そう言つと月村は端末を操作する。

すると、エリア内にハンターの顔を模したマークが映し出されたモニターがある七台の機械が転送された。

.....

残り時間 93:00
賞金 ¥486000

ジュリッジュリッ

涼

「おととと……」

メールだ。

涼

「あ、メール……『ミッション2』か！」

長門

「『エリア内に七台のハンター誘導装置を設置した』……」

ほむら

「『ゲーム残り75分になるとエリア内にハンターを7体放出し』……7体!？」

キヨン

「『以降3分ごとにハンターが7体ずつ放出され続ける』だと!？」

さやか

「『阻止するには装置の二つのレバーを二人同時に降ろして装置を止めなければならない』」

はやて

「『装置は1〜7までの番号順に止めなければならず、1台停止することによって放出されるハンターの数も1体減る』………うわ、ムズイわ」

「MISSION 2 ハンター誘導装置を停止せよ！」

エリア内に設置されている、七台のハンター誘導装置。

ゲーム残り75分までに誘導装置を探し出し、装置の二つのレバー

を二人同時に降ろして停止させなければ、駐車場エリアにあるトワイライト・ガーデンの入口から停止していない装置と同じ数のハンターを放出。

その後、3分ごとにハンターが停止していない装置の数だけ放出され続ける。

但し、装置には1〜7の番号が刻まれており、番号順に装置を止めなければならぬ。

また、装置は美術館内、ガーデンエリアの森、噴水の自家用電話の近くに一台ずつ、ショッピングエリアと駐車場に止まっているトラックの中に二台ずつ設置されており、地図で確認もできるが、番号は分からない。

さやか

「ちょうど二人居るし、行くよ！」

杏子

「おk」

春香

「こ、これは行かないと……………」

ハルヒ

「あたしがやりゃクリアしたも同然でしょ！」

エリオ

「7体とか来たら終わる……………行かないと!」

まどか

「ほむらちゃんはミッシェン行く?」(ほむらに電話中)

ほむら

『まどかが行くなら私も』

さやか、杏子、春香、ハルヒ、エリオ、まどか、ほむらがミッシェンへ向かう意思を示す。

冬馬

「まずは他の連中を探るか……………」

冬馬も果敢に動き出し、装置より先に他の逃走者を探し始める。

7台の装置を止めなければ、大量のハンターが放出されてしまう。

しかし、エリア内には4体のハンター。動けば見つかる危険も高まる。

ハンター放出を阻止する事はできるのか!?

残り時間 91:42

賞金 ¥509400

残り20人

表と裏で動き出す者達（後書き）

新たなミッションが始まりました。

一方の月村達の動きにも注目です。

大量ハンター放出の恐怖（前書き）

ミッション2です。

大量ハンター放出の恐怖

逃走者が残り20人になった所で、新たなミッションが始まった。

二人の逃走者でハンター誘導装置を番号順に止めなければ、残り7分から3分ごとにハンターが放出される。

残り時間 91:30

賞金 ¥513000

前回 開始時 21人

確保 1人

残りの逃走者 20人

ショッピングエリアにてハンター誘導装置を探すエリオ。

エリオ

「しかしこの辺は人が多いな……ハンターが紛れ込んでるかもしれないし、慎重に行かないと」

ハンターは神出鬼没。いつどこで遭遇するか分からない。

エリオ

「装置どこだ〜？」

辺りを見回しつつ先へ進む。

しかし……………

店店店店店店店

誘導装置

エ

店店店店店店店

誘導装置を通り過ぎた。

キュウベえ

「ハンター誘導装置ってこれの事かな？」

いち早く噴水近くの誘導装置を見つけたキユウベえ。

まどか

「キユウベえ！」

キユウベえ

「あ、まどか」

そこに装置を探すまどかが姿を現す。

まどか

「キユウベえもミッションやってるの？」

キユウベえ

「装置を見つけたからにはやらない手はないね。でもこの装置の番号は6だ。まだ止められない」

ハンター誘導装置は黒い円筒状になっており、モニターの左横に数字が刻まれている。

キユウベえの言う通り装置には『No.6』と刻まれており、モニターにはハンターの顔の下に『切替不可』と表示されていた。

まどかは困った顔をした後、別の装置を探しに行った。

ハルヒ

「あつた〜！って違っじゃん！」

ハルヒも駐車場のトラックの荷台にある誘導装置を発見。
しかし、番号は3だ。

ハルヒ

「あ、春香ちゃん……………ちゃんと探してんのかな」

視界にはトラックに隠れつつ装置を探す春香の姿。

その近くに……………

ハルヒ

「げっ！やばい！」

一瞬黒い何かが見え、その場を離れるハルヒ。

しかし、それはハンターではなく……………

律子

「あ、ミッションやってる?」

春香

「当然です!だってハンター7体も……………」

律子

「そうね。しかし最近は逃走中也進化したわね……………ミッションも舞台もとにかく色々」

そう呟きつつ装置を探す。

そして……………

春香

「ありました!NO・1ですよ、NO・1!」

遂にNO・1の装置を見つけ、春香と律子はレバーを下げようとす
る。

ところが……………

律子

「ん?ちょっと待って?」

春香

「え？」

律子

「え、ちょ、何これ？切替不可！？」

春香

「ええ〜！？」

一番最初の装置である筈のNo.1の装置に『切替不可』と表示されていた。

春香

「切替不可って……………」

律子

「え？え？どうするの？」

試しにレバーを降ろしてみるが、装置は止まらない。

混乱する二人の近くに、冬馬が現れる。

冬馬

「何してんだ？装置でも見つけたのか？」

春香

「そ、それが……………」

律子

「1番の装置を見つけたはいいけど、切替不可になってんのよ……
…一番最初に止めなきゃならない筈なのに………」

冬馬

「何っ!?!」

一方、こちらはショッピングエリア。

涼

「あ、あれじゃないですか誘導装置って?」

はやて

「ホンマや!」

涼とはやてが合流し、竜宮小町のステージ近くに別の装置を発見した。

はやて

「でも『No.7』って書いてあるえ〜」

番号を確認してすぐ通り過ぎる二人。

さやか

「あ、涼！装置見なかった？」

涼

「あつちの装置は7番だったよ」

杏子

「場所だけ確かめところ」

別の方向から来たさやかと杏子が先程の装置へと向かう。

しかし、その正面からハンター……………

ハンター

「！」

杏子

「ってハンター来た！」

はやて

「なんやて〜!?!」

さやかと杏子はすぐ物影に隠れ、はやてと涼もまっすぐに逃げた後に出店に隠れる。

ハンター

「？」

ハンターは四人を見失ったようだ。

しかし……

長門

「！」

ハンター

「！」

たまたま近くを通り掛かった長門が見つかった……

涼

「不幸な人だ……」

はやて

「運が悪かったな」

その様子を出店の影から見つつ、ハンターが離れるのを待つ涼とはやて。

ハンター

「LOCK ON YUKI」

その気になればハンターなど簡単に振り切れる長門だが、ゲーム中はそうもいかない。

普通の人間レベルの速さで走る長門にハンターが迫る。

長門

「……………！」

ポンッ

「長門有希 確保 残り19人」

残り時間 87:37

賞金 ¥582900

長門
「……………捕まった」

無表情で牢獄へ向かう……………

ハルヒ
「有希〜！」

スバル
「『長門有希確保、残り19人』……………」

絵理
「20人切った？」

まどか
「あつた！……………あれ？さやかちゃん？」

さやか
「お？」

杏子

「そつちも探してみたんだな？」

まどか、さやか、杏子が先程のN O ・ 7の装置に辿り着く。

杏子

「N O ・ 7だから一番最後か。手分けして探すぞ」

まどか

「うん……………あれ!？」

その時、まどかが装置のモニターを見て驚く。

さやか

「まどか、どうし……………あれ!？」

何と、N O ・ 7の装置のモニターに『切替可能』と表示されていた。

さやか

「え!?!もつ六つ止められてるの!?!早くない!?!」

杏子

「とどかくみつとと止めるぞ」

さやかと杏子が装置のレバーを降ろすと、モニターが消える。

ハンター誘導装置 停止 残り6台

愛

「メール…『美樹さやか、佐倉杏子の活躍によりハンター誘導装置が1台停止』……」「」

キヨン

「あと6台か」

まどか

「でも、ミッションクリアってメールが来ない……」「」

一方、No.1の装置の近くの三人は……

ブルルルルル

冬馬

「およ？鹿目から電話だ」

律子

「随分まどかちゃん仲良いのね」

冬馬

「まあな。もしも〜し？」

まどか

『冬馬さん？今さやかちゃんと杏子ちゃんが装置一つ止めましたよ』

冬馬

「え？止めた？俺今1番の装置の近くなんだが、切替不可になつてたぞ」

まどか

『へ？さやかちゃん達が止めたのNO.7って書いてありましたよ？』

冬馬

「ああん？NO.7って……ん！？まさか!？」

まどか

『どうしたんですか？』

冬馬

「確かメールに『1から順番に』とは書いてなかったよな？」

まどか

『え？そうでしたっけ？』

冬馬

「もしかして番号順は番号順でも、7、6、5、4、3、2、1の順番に止めないとなんじゃねえか？」

まどか

『えー！？』

.....

一方、月村達は.....

月村

「どつやら無事に気づいてくれたようだな。発信元は掴めたか？」

月村は1から順番に止めるように設定していたが、外部からの妨害によって順番が逆になってしまった。

しかし月村はそういったゲームへの妨害を誘う事でその大元、つまりグレイト・エスケーパー計画の首謀者を探ろうとしていた。

フェニス

「どうやら発信源は月村様が持っているものと同じ外部端末のようです」

月村

「これでは犯人の特定は難しいな……………」

月村達は地下制圧用ハンターが来るまでもうしばらく様子を見る事にした。

その姿を、どこからか見下ろす者が居た。

？

「なかなか手の込んだ真似をするな。R8（アールエイト）、引き続き監視を続ける」

R8

「了解……………」

R8と呼ばれた謎の少年がその人物に頷く。

？

（月村、お前が何をしようとグレイト・エスケーパー計画は止められない。何しろこの計画は今回のゲームが始まる前から続いている

のだからな……………)

R 8

(月村サトシ……………あなたはどつする?)

謎の人物とR 8はただ月村達を見つめていた。

……………

そしてこの謎の人物の妨害により、逃走者達はハンター誘導装置を逆の番号順に止めなければならなくなった。
さやかと杏子がN 0・7の装置を止めたため、残りは6台。

キユウベえ

「今まどかから電話があつて、7から順番に装置を止めるみたいなんだ」

古泉

「随分と手の込んだミッションですね。テレビでもたまに……というのありますからね」

NO・6の装置の近くで待機していたキュウベエの近くを古泉が通り掛かり、二人で装置を止めた。

ハンター誘導装置 停止 残り5台

古泉

「次はNO・5の装置ですね」

キュウベエ

「ボクも探してみようかな……………」

一方、NO・1の装置の近くの三人は……………

春香

「これは一番最後か……………もう……………何で逆なの……………」

律子

「とにかくまた1台止められたみたいだし、手分けしてNO・5を探すわよ」

冬馬

「言われなくとも!」

三人は別々に次の装置を探し始めた。

残り時間 83:06

賞金 ¥664200

残り19人

大量ハンター放出の恐怖（後書き）

次の逃走中は来年の1月と予想するこの私午後零P。
あちらのドラマの展開も気になります……………

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n5037w/>

逃走中 Mix M@ster! ~グレイト・エスケーパー計画を阻止せよ! ~

2011年10月19日09時21分発行